

## 島根大学医学部 研究業績報告集第12号の発行によせて

この度、私の学部長としての任期の終了するこの9月になり、ようやく第12号（平成17年～平成18年）の発行にこぎつける事ができました。

この研究業績報告集は、島根医科大学の開学以来、発行が続けられてきたもので、平成15年10月の（旧）島根大学との統合後も医学部と出雲キャンパスで勤務する教職員の研究業績集として2年に1回、発行を続けています。第11号からは冊子体の発行をとりやめてCDとして発行し、ホームページに掲載する形態に変更いたしました。各部署において作成された原稿を提出いただいた上で、総務課の職員に編集作業を担当していただきました。ご協力をいただいた皆様に深くお礼を申し上げます。

さて、島根大学は大学統合と法人化という大きな曲がり角をようやく曲がり切り、「人とともに地域とともに島根大学」というスローガンと新しく制定された大学憲章の下、新たな大学作りに向けて全力で取組みを進めています。とりわけ、医学部においては、「地域医療人の育成」と「がん研究・診療の拠点作り」に大学のもっている力を集中し、関連団体等からの協力と援助をえながら取組み、文部科学省の大型競争的資金の獲得にも成功しています。

今後は、このような戦略の中から産み出された研究成果を情報発信し、外部評価に対応した研究内容の充実を図る必要があると考えています。そのためにはホームページを活用した情報発信は必要不可欠です。この業績集にみられるように、医学部を中心とした出雲キャンパスで働く教職員の研究活動はきわめて活発であり、学会発表はもちろんのこと、国際雑誌に掲載される論文も多くなってきています。また、一方、研究成果を地域の住民に理解していただくことを目的とし、地域住民の保健・医療・福祉に還元する努力を続けていく必要があります。そのために、医学部では生涯学習教育支援室を設置して、毎年、多数のセミナーや講演会を企画・実施しています。

現在、島根大学全体では、研究業績集を大学全体としてリポジトリに一本化するという提案がなされ、すでに入力作業が開始されています。従って、今後、研究業績集の形態は変わっていく可能性があります。研究活動を行ってその一覧を一括して情報発信することは必須の活動であり、大学の使命でもあります。今後、教職員のみなさんと島根大学医学部の研究活動がさらに発展し、地域住民、そして、この地球に住む人類の健康と福祉、そして、学術文化活動の発展に貢献していくことを祈願しながら、研究業績集第12号に発行にあたり、ご挨拶とさせていただきます。

平成19年9月

医学部長  
益 田 順 一